# 研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|---|
| ３２８ | 高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室 |

**題名（原題／訳）**

Alcohol consumption, mild cognitive impairment, and progression to dementia.
アルコール消費、軽度認知機能障害そして痴呆症への進行

**執筆者**

Solfrizzi V, D'Introno A, Colacicco AM, Capurso C, Del Parigi A, Baldassarre G, Scapicchio P, Scafato E, Amodio M, Capurso A, Panza F; Italian Longitudinal Study on Aging Working Group.

**掲載誌（番号又は発行年月日）**

Neurology. 68(21):1790-1799 ( 2007)

**キーワード**

アルコール、認知機能障害、痴呆症

**要　旨**


目的：

軽度認知機能障害の発症とその痴呆症への進行に与えるアルコール摂取の影響について評価する。

方法：

「加齢に関するイタリア縦断的研究」に参加した 65～84 歳の認知機能障害のない 1,445 人での認知機能障害の発症と、軽度認知機能障害を持つ 121 人の患者の痴呆症への進行について 3.5 年の追跡調査を行った。アルコール摂取の程度は調査の前年に確認された。痴呆症と認知機能障害は最新の臨床診断基準を用いて分類した。

結果：

軽度認知機能障害を有している患者で中等度の飲酒者（1 日に 1 単位以下、アルコールにして約 15 g）では、飲酒しない患者と比べて、痴呆症への進行率が低かった。さらに、軽度機能障害を有する患者で 1 日に 1 単位以下のワインを消費している中等度飲酒者では、非飲酒者と比較して痴呆症への進行率が有意に低かった。最後に、軽度認知機能障害から痴呆症への進行率に、高度飲酒（1 日に 1 単位以上）は関連性を有しなかった。また、認知機能障害を持たないヒトが認知機能障害を発症する率と飲酒レベルの間での関連性も見られなかった。

結論：

軽度認知機能障害を持つ患者では、1 日に 1 単位までのアルコールやワインの摂取は痴呆症への進行率を低下させるものと思われる。